

小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	新1年生に赤羽小学校を紹介しよう
学年	小学校第5学年
目標	新1年生対象にした学校説明会で、新1年生とその保護者を対象に赤羽小の良いところや学校施設・授業時間等を、児童が考えた紹介方法を用いて紹介する。
教材タイプ	ロボット
使用教材	港区教育委員会導入 ソフトバンクグループ株式会社「Pepper 社会貢献プログラム」
環境	児童4名で1台の端末を使用
都道府県	東京都
実施校	港区赤羽小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	<p>次年度入学の新1年生対象に行う説明会で赤羽小学校を紹介する活動を行った。その際に、既存で学習していたプログラミング教材を使って紹介したいと児童から提案があり、Pepperを利用して紹介することとした。</p> <p>児童が紹介のために考えたプログラム</p> <p>①保護者会の会場までの案内 ②学校の良いところの紹介</p> <p>学習過程</p> <p>①新1年生・保護者のために何を伝えるか決める。 ②プログラミングの計画・作業書を作成する。 ③プログラムを行う。 ④バグを発見し、修正を行う。 ⑤学級の児童相手にプログラムした内容を実演する。 ⑥新1年生保護者会で実際に実行する。</p> <p>学習活動の様子</p> <p>プログラミングは、Pepperの他、文部科学省「プログラミン」も経験していたので活動に対して進んで取り組む児童が多かった。</p> <p>単純なプログラミング言語を教えてから活動させた。活動の時間には、プログラミング用PCの他にタブレットPCも活用し、自分たちの考えた動きをプログラムするにはどうすればよいか調べながら学習していた。難しいプログラムは何度も入力・実行を繰り返して行っていた。他のグループが困っていると助け合う姿も見られた。計画通りにできた際には、グループのメンバーと互いに喜びを分かち合っていた。また、計画したこと以外の動作の方法が分かると、どのように活用していくか話し合いを行い、実際に生かせるかどうか試行錯誤する場面が見られた。</p>
成果と課題	<p>成果プログラミング教育が、どのようにすれば成功するか児童の思考面の育成につながった。プログラミングに興味をもち家庭でもやってみようという意欲ももてた。</p> <p>課題プログラミングの際のビジュアル言語が難しかった。現在は新しいビジュアル言語があるのでそちらを活用したい。</p>